



大雪山国立公園 美瑛町エリア



ゼロカーボンパーク

2024. 6. 16 登録

気候変動による自然災害が世界各地で発生しています。これらの要因は、温室効果ガスによる地球の温暖化といわれており、国際的にも目標を持ったCO₂削減対策を実施しているところでもあります。美瑛町においても、2022年4月にゼロカーボンシティを宣言し、CO₂削減に取り組んでいるところです。この豊かで美しい大雪山国立公園を100年先にも残していくため、CO₂の排出を減らす心がけを、この地に訪れる方にもご協力いただくため、環境省が実施しているゼロカーボンパークに加わりました。

～ 世界を魅了する大雪山国立公園 ～

(国立公園指定 90周年)

ゼロカーボン活動と一緒にいきましょう！

～大雪山国立公園を訪れる方へのお願い～

美瑛町は、ごみを減らす**3R**（リデュース、リユース、リサイクル）を推進しています。豊かな自然に配慮した行動を皆様に呼びかけ、**100年先でも世界を魅了する大雪山国立公園**を目指しています。

- ① **マイボトル**を持ち歩き、**ペットボトルの削減**にご協力ください。
- ② プラスチックごみや使用済みペットボトルは**専用の回収ボックス**に捨てるか、自宅へ持ち帰り、ルールに基づいた**リサイクル活動**にご協力ください。
- ③ 排気ガスを出さない**ゼロ・エミッションモビリティ**（電気自動車、電動キックボード）や**自転車**による地域内の交通を推奨しています。

皆様のご協力をお願いします（美瑛町まちづくり推進課地域みらい創造室ゼロカーボン推進係）

1. 丘のまちびえいと大雪山国立公園（白金・十勝岳）

大雪山国立公園は、北海道の中央部に位置し、日本最大の面積を誇る国立公園で、公園内にある十勝岳は、現在も噴煙を上げ、約30年を周期に噴火を繰り返している活火山です。

およそ200万年前より大規模火山噴火による火砕流堆積物が積み重なり、美瑛町は、日本ではまれな丘陵地帯となりました。その大地を開拓者が農地として開墾し、美しい農業景観が引き継がれています。

- ・1926～1989年・・・計3回の十勝岳の噴火活動
- ・1934年・・・「大雪山国立公園」に指定
- ・1950年・・・「白金温泉」の開発
- ・2022年1月・・・十勝岳ジオパークが日本ジオパークに認定
4月・・・ゼロカーボンシティを宣言



十勝岳と紅葉

2. ゼロカーボンに向けた美瑛町の取組

① CO₂を吸収する森林の適切な管理

- ◆2024年1月に日産自動車(株)との包括連携協定を締結し、今後、美瑛の豊かな自然を守るための活動「ブルー・プロジェクト」の実施や、サステナブルかつ安全で安心な観光地づくりを実施。

② 植林や木育事業など、環境意識向上につながる取組

- ◆植林や木育事業などの森林保全プログラムや環境意識向上につながる取り組みを実施。



日産自動車(株)との協定

③ 公共施設や宿泊施設等の再エネ活用や省エネ設備の導入

- ◆公園内にある宿泊施設においては、省エネ対策として、照明器具のLED化や高効率設備等への設備更新を実施。
- ◆公共施設については、ゼロカーボンの実現のため、再エネ活用や省エネ設備の導入を検討。



空調の設備更新や照明器具のLED化でCO₂削減した施設

④ 排気ガスを出さないゼロ・エミッションモビリティの普及

- ◆道の駅びえい「白金ビルケ」を入り口とする白金エリア(十勝岳望岳台駐車場など大雪山国立公園を含む)を電気自動車推奨エリアとして位置付け、EV充電設備の設置を推進する。

※「白金ビルケ」には2025年に設置予定

- ◆観光における移動分野のサステナブルツーリズムを推進することで、二次交通の脱炭素化を図り、持続可能な観光地を目指す。



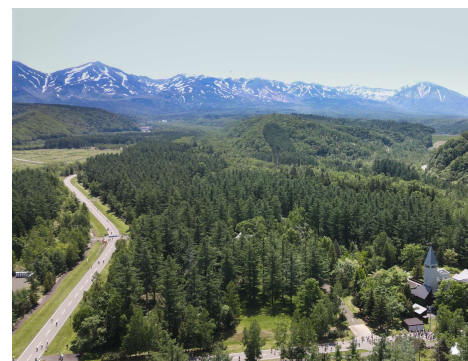
道の駅びえい「丘のくら」に設置しているEV充電設備



電動キックボードの貸出で脱炭素二次交通を推進

⑤ ペットボトルの適切な廃棄対策

- ◆登山客や観光客が多い国立公園内の利用拠点施設を含む各利用地点で、分別をわかりやすく表示(多言語での表示も含む)したペットボトル専用回収ボックスの設置を行い、徹底した分別回収を実施するとともに、回収したペットボトルはケミカルリサイクルルートで処理。



道の駅びえい「ビルケ」



大雪山国立公園内
白ひげの滝

⑥ 脱炭素・脱プラスチックを促すための啓発活動

- ◆脱炭素・脱プラスチックの取り組みであるマイボトルの使用や資源ゴミの分別など、身近な脱炭素活動を周知し、大雪山国立公園・美瑛エリアを訪れる方と共に2050年ゼロカーボン実現を目指す。